

	<p style="text-align: center;"><b>保育科 特任教授</b></p> <p style="text-align: center;"><b>松野 洋人 (まつの ひろと)</b></p> <p style="text-align: center;"><b>Matsuno Hiroto</b></p>
<p>自己紹介 (プロフィール)</p>	<p>41年間、公立の小学校・中学校・高等学校に勤務し、平成21年度から現職として本学に勤務しています。学生の若いエネルギーに刺激を受けながら楽しく充実した日々を過ごしています。仕事以外では、古い街並みの撮影、美味の实地探索、クラシック音楽鑑賞などを楽しんでいます。</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>青年期に大切なこと、それは、「命とは／死とは／幸福とは／平和とは／正義とは／国家とは／愛とは／友情とは／孤独とは／絶望とは／善とは／悪とは／私とは」などといった簡単に答えを得られない命題について、突き詰めて考えること。それなくして大局的な視野はひらけません。</p>
<p>保有資格・免許</p>	<p>中学校教諭一種免許状 (国語) 高等学校教諭一種免許状 (国語)</p>
<p>研究分野</p>	<p>教科書編成論 教材研究方法論 古典教材論</p>
<p>主な担当科目</p>	<p>教職実践演習 (幼・小) 国語科概論&lt;専&gt; 国語科教育研究&lt;専&gt;</p>
<p>学外での活動</p>	<p>「新しい国語実践」の研究会常任理事 (H8～) 山梨国語教育実践研究会顧問 (H17～) 光村図書「中学校用教科用図書『国語』」編集委員 (H21～) 国語教育実践改革会議副代表 (H21～) 総務省行政相談委員 (H23～)</p>
<p>所属学会</p>	<p>全国大学国語教育学会 日本国語教育学会</p>

主な職務実績（抜粋）

事項 (単独・共同)	年月日	概要
(教員研修会) 山梨県総合教育センター 国語科研修会：講義・講師 (単独)	H22.8	山梨県内の小学校・中学校・高等学校それぞれの国語科教師を対象として、「国語の授業における読書指導の在り方」について講義した。新学習指導要領においても読書指導の重要性が強調されており、国語の授業と関係づけながら読書へどのように誘うか、具体的な方策を提示し指導した。(山梨県総合教育センター主催、於：山梨県総合教育センター)
(教員研修会) 「新しい国語実践」の研究会群馬大会：シンポジスト (共同)	H22.12	国語科の新学習指導要領で拡充提示された「言語活動例」について、その国語教育史における歴史的位置や授業実践における課題と展望、さらに学習指導要領の本来果たすべき役割・性格と今回拡充提示された「言語活動例」との関係等を中心に、シンポジストとして提言した。(「新しい国語実践」の研究会主催、於：群馬・磯部温泉磯部館)
(教員研修会) 中央市立豊富小学校校内 研究会：講義・講師 (単独)	H23.6	国語科において実践研究が遅れている「話すこと・聞くこと」領域の指導の課題と展望について講義した。音声は一過性であり、それがこの領域の実践研究を難しくしてきた。また指導が態度論に偏っていたという実態もあり、目的論、話・聴者関係論、評価論等の視点から授業を改善する必要性を中心に指導した。(中央市豊富小学校主催、於：豊富小学校)
(教員研修会) 全国国語教育研究大会： シンポジスト (共同)	H23.7	今回の学習指導要領国語改訂の一つの柱である「言語活動の充実と国語科授業改善」について、「思考・判断・表現」重視の立場から、「思考」や「判断」の過程や結果を「表現」させる機会を授業の中により多く設定することの重要性を、シンポジストとして提言した。(国語教育実践改革会議主催、於：東京・十文字学園)
(教員研修会) 「新しい国語実践」の研究会 大阪大会：助言者・講師 (共同)	H23.12	「伝統的な言語文化」分科会の講師として助言・指導を担当した。新学習指導要領で小学校低学年から古典学習が位置づけられたことを受け、小中学校それぞれにおける教材編成、義務教育9年間を見通した指導内容の発展性・連続性等について、具体的な教材を取り上げ指導した。(「新しい国語実践」の研究会主催、於：大阪・アウイーナ大阪)
(教員研修会) 横浜市中学校国語教育研究会 ：講義・講師 (単独)	H24.6	短歌の学習が生徒に好まれていないという実態を受け、作歌時の作者のおかれていた状況、短歌の作られた背景等について情報を提供することにより、生徒がドラマとして短歌を鑑賞できるようにすることの重要性を指摘した。(横浜市国語教育研究会中学校部会主催 於：横浜市立大綱中学校)
(教員研修会) 全国国語教育研究大会 シンポジスト (共同)	H24.8	新学習指導要領において強調されている「言語活動の充実」の方策について、一つは、学習指導要領に例示されている「言語活動」を具体化する方策を、二つは、学習指導要領の例示を超えた「言語活動」開発の視点や活動の具体的展開例を提言した。(国語教育実践改革会議主催 於：東京・十文字学園)
(教員研修会) 山梨県総合教育センター 国語科研修会：講義・講師 (単独)	H24.8	山梨県内の小学校・中学校・高等学校それぞれの国語科教師を対象として、「文学的文章の読み方の指導法」について講演した。「場面分け／登場人物の心理把握／主題把握」に固定した従来の読みを脱却し、芸術としての文学の鑑賞法について提言した。(山梨県総合教育センター主催 於：山梨県総合教育センター)
(教員研修会) 東京都大田区小中学校国語教育研究会 ：講義・講師 (単独)	H24.10	新学習指導要領で強調されている「思考力・判断力・表現力の育成」と絡め、「説明的な文章の指導法」について講義した。「要点／要約／要旨」といった細切れの指導を改め、書く力に転移できる文章構成力、文章内容を批判的に読む力等を育成することの重要性について提言した。(大田区小中学校教育研究会国語部会主催 於：大田区立糀谷中学校)
(教員研修会) 「新しい国語実践」の研究会 千葉大会パネリスト (共同)	H24.12	「言語活動の充実」については国語教育界の大きな流れになっているのだが、活動が目標達成のために機能しているのか否かについては十分に検証されていない現状があり、「言語活動の評価」の必要性やその具体的方策について提言した。(「新しい国語実践」の研究会主催 於：千葉市・ポートプラザちば)

主な職務実績（抜粋）

事項 (単独・共同)	年月日	概要
(教員研修会) 山梨県総合教育センター 国語科研修会講義講師 (単独)	H25.7	山梨県内の小学校・中学校・高等学校それぞれの国語科教師を対象として、「説明的文章の読み方指導演法」について講義した。 事実性の強い文章と意見性の強い文章それぞれの扱いの違い、比較読みの導入などの視点を中心に、この種の文章の読みの指導の改善策について提言した。 (山梨県総合教育センター主催 於山梨県総合教育センター)
(教員研修会) 「新しい国語実践」の研究 会札幌大会パネラー (共同)	H25.7	「言語活動」の充実をキーワードに国語の授業改善が進められているが、その効果の見定めについては十分ではない。取り組みの評価方法の明確化、新たな言語活動の開発の必要性、授業成果の実生活への生かし方等について、「ダイアログフォーラム」において提言した。（「新しい国語実践」の研究会主催於：ホテルライフフォートサッポロ）
(教員研修会) 全国国語教育研究会シ ンポジスト(共同)	H25.8	一般に「言語の教育としての国語科」と言われているのであるが、現実 に教室で行われている国語の授業は、子どもたちが社会に出た時役立つ 言語能力を保障しているだろうか、という問題の改善策等について提言 した。（国語教育実践改革会議主催於：東京十文字学園）
(教員研修会) 東京都杉並区教育研究会 中学校国語部会講義講師 (単独)	H25.8	新たに小学校から古典指導をと行うことになったことを受け、中学校で の古典指導どのようにあるべきか。小・中・高全体を見据えたカリキュ ラム編成の重要性、教科書教材だけに頼らない教材開発の必要性、多様 な指導法の試みの必要性等について提言した。（杉並区教育研究会中学 校国語部会主催於：杉並区立荻窪中学校）
(教員研修会) 東京都東村山市中学校国 語教育研究会講義講師 (単独)	H25.10	授業と生徒の言動実態の両面から「話すこと・聞くこと」指導の問題点 を確認し、教材・指導それぞれの視点から授業改善の方策について提言 した。特に、この音声言語領域の特性である「音声は消える」「話す・ 聞くは同時展開」という点について対応策提言した。（東村山市中学校 国語教育研究会主催於：東村山市立東村山第6中学校）
(教員研修会) 東京都板橋区中学校教育 研究会国語部会講義工事 (単独)	H25.11	読書指導の課題と天保について提言した。課題については、読書指導が 日常生活における読書生活の充実に関係していない点を指摘し、本と の出会いづくり、読書週間形成から精選読書への発展移行、学校図書館 の環境整備等を中心に読書指導の充実策について提言した。（板橋区中 学校教育研究会国語部会主催於：板橋区立桜川中学校）
(教員研修会) 東京都青梅市中学校国語 研究会講義講師(単独)	H26.2	学力向上につながる言語能力の育成について提言した。国語科が育成す べき基本的学力を、「基礎としての国語力」「基本としての国語運用(操 作)力」「文化としての国語力」の三つの柱を立てて分析し、それぞれの 内容と指導の重点等について提言した。（青梅市中学校国語研究会主催 於青梅市立霞台中学校）

主な教育研究業績（抜粋）

著書、学術論文等 (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑 誌、発表学会等	概要
『わかる板書で読解 力を高める・中学校』 (共著)	H19.11	明治図書	生徒の学習の軌跡である板書について、板書と生徒のノートとの関係、授業準備の中核としての板書計画の必要性、板書への生徒参加の方法等の観点から、授業における板書の重要性を指摘した。（Ⅱ－1）
『読解表現力強化プ ログラム・第6学年』 (共著)	H21.11	明治図書	今回の学習指導要領国語の改訂は、いわゆる PISA 改訂の 色彩が濃いのであるが、その PISA 型読解力の育成につい て、学習指導要領における史的位位置、PISA 型読解力の課 題と可能性等について指摘した。（Ⅱ－1）

「教材の径」中学校 国語教材研究（10回 連載）	H19.9～ H22.9	『国語教育相 談室・中学校』 光村図書	光村図書の中学校国語教科書から、小説／説明／論説／古 典／作文／読書／短歌／学年最終／話す・聞く／など多様 な領域の教材を取り上げ、それぞれについて教材の分析方 法や指導の方法を具体的に提示した。
『国語1. 2. 3』 光村図書中学校国語 科用教科書（共著）	H23.2	光村図書	平成24年度版中学校国語教科書について、「編集委員」「著 作者」として作成に参画した。
「不易の課題・流行の 課題」(共著)	H23.2	「月刊国語教 育」No.371(東京 法令出版)	新教育基本法、PISA 調査結果、全国学力・学習状況調査 結果等から見えてくる国語科教育の今日的課題について 「言語活動の充実／語彙の拡充／古典学習の充実」の3視 点を中心に方策を具体的に提示した。(pp.46～49)
「自力で作品と向き 合う授業を」(共著)	H24.11	「実践国語研 究」No.315(明治 図書)	授業において「待ち」の姿勢、「受け身」の姿勢の児童生徒が 多い現状を踏まえ、自力で作品と向かい合い、「書き込み」 をしつつ「問い」をもたせることの重要性を、文学の読みの 授業を例に提起した。(pp.15～16)